

めでいかすどる

Médicastre



「酉年の年男・年女」

新年にあたって（2005）

齋藤 壽一

新年明けましておめでとうございます。会員の先生方、職員の皆様には無事鶏旦をお迎えのことと存じます。本年もよろしく願いいたします。

昨年は最多の台風の上陸や内外での大地震とまことに災害の多さが目立ちました。一方地方の時代と言われてから久しいのに地域の不況感はなかなか回復せず、また医療界でも青空は一向に見えてきません。混合診療反対の活動も玉虫色の決着となった感を抱かざるを得ません。住民誰も、いつ、どこでも、一定のレベルの医療が受けられるという国民皆保険制度の堅持と良質な医療を提供可能な基盤の整備は今後も必要不可欠であります。医政活動を進めるにあたってはこのことを重視していかなければならないと思います。

いま地球温暖化は人類の未来に大きな影を投げかけています。国レベルでの対応は当然のこととして、われわれ一人一人もできる範囲で行動を始めるべきと考えます。わが医師会では手始めとして健康管理センターと湯田川温泉リハビリテーション病院のボイラーの燃料を灯油に変更しました。当然いま建設中の「みずばしょう」のボイラーも同様です。この「みずばしょう」の話が出ましたのでいくつか申し上げます。建設のキーワードのひとつが「環境にやさしい」です。この方針で（1）外張り断熱（2）床暖房（3）温泉水の多角的な利用（4）輻射式冷暖房システム（5）風力、太陽光エネルギーの利用などを考えて建設中です。完成した暁にはその運営が順調に滑り出すことができますように会員の皆様のご支援をお願いしたいと思います。

その他の医師会諸事業も順調に進んでいます。湯田川温泉リハビリテーション病院でも在宅サービスセンターも先行きは不透明で、介護保険の先行き次第の面があります。ただし大山の特別養護老人施設と羽黒の介護老人保健施設の出現は地域の医療、福祉の分野にいい緊張感をもたらすだろうと思います。その緊張感が地域の介護レベルの向上に繋がればという期待を持ちたいものです。諸団体との連携が重要と思いますが真の意味の連携を追求していきたいと思います。健康管理センターの検診事業は曲がり角を迎えています。老人保健事業の一般財源化に始まり財源の切り詰め、地域の不況の長期化などのために必要経費を削減し始めました。住民の健康を推進する大きな柱の一つである検診を弱体化する動きは住民に動揺を与えることでしょうか。年金、保険、介護、災害、老後など多重の不安を抱える時代に最も重要な基盤である健康を守ることへの願いは住民だけではなく、医療関係者にとってもぜひ必要なことです。

地域完結型医療にとって有用なIT（Net4Uなど）は今後も推し進めなければと考えています。Net4Uの後継のツールを検討していきたいと思います。平成19年の全国医療情報システム連絡協議会が山形県医師会と共催としてこの鶴岡で開催されることが内定したと聞いております。これまでの関係者の努力のお陰ではありますが、うれしい話です。

小児救急の問題が出て、それが医師会の役員会のお話で少しだけ取り上げられただけで、小児科医会の諸先生は敏速に、確固たる信念を持って対処していただきました。鶴岡市休日夜間診療所の日曜日午前中は小児科医が常駐することになりました。思ったとおりの利用者数であり、住民の期待にある程度応えることができました。市立荘内病院小児科の対応とあいまって小児救急が一步レベルアップしたと考えています。

以上種々の話題について申し上げましたが、今後とも医師会諸事業の運営のためには関係諸団体のご支援と会員、職員の皆様のご助力がぜひとも不可欠です。よろしく願いします。

新年が皆様にとって素晴らしいものでありますことを祈念しています。

新年を迎えて

鶴岡市立湯田川温泉リハビリテーション病院院長

竹田 浩洋

明けましておめでとうございます。

去年は、景気の回復基調、オリンピック選手やイチロー選手の活躍など、明るいニュースも決して少なくなかったにもかかわらず、相次ぐ災害や多発する犯罪などがマスコミを賑わせ、とうとう「災」の字がふさわしい一年ということになってしまいました。

混合診療問題は一応の決着をみたというものの火種はくすぶり続けて、医療を取り巻く情勢は依然厳しいものがあります。しかしこのような時こそ、真に国民のためになる医療制度を守り抜く、医師会の活動が重要となります。今年こそは、会員諸先生にとって良い年となることを祈りたいと思います。

湯田川温泉リハビリテーション病院は、お蔭様で順調な歩みを続けています。MRIの共同利用は多くの先生から利用していただき、依頼件数も月間20件くらいまで伸びてまいりました。まだ余力はありますので、今後とも遠慮なくご活用ください。

今年、病院は張りつめた雰囲気の中で新年を迎えました。いよいよ1月17、18日の両日、病院機能評価を受審致します。開院後、病院運営が軌道に乗った頃から、この日のために準備を進めてきました。自らの足元を見つめ、仕事の内容を見直すことに始まり、患者さん、ご家族の皆さん、市民の方々からもご意見を頂きながら、業務の改善を行ってきました。基本理念、基本方針や患者憲章を定め、診療録開示にも対応できる体制を整えました。これを土台として、今後とも努力を重ねて、真に市民の皆様に安心と満足を与えることができる病院を目指していきたいと思っております。

当院は、元旦を期して院内禁煙を実施致し

ました。療養型病院に対する病院機能評価基準は、来年度改訂が予定されています。当院はこの改定後の新基準にも適合することになります。これで院内における受動喫煙問題は解消しますが、患者さん・利用者さんに対しては、禁煙を強制しないのが療養型病院の建前となっています。今回病院建物外2箇所に設置された喫煙所は、現在と比べると距離が遠くなり、また車椅子の方の利用を考えると手狭でもあるので、サービスダウンと言われたいよう、来年度以降にさらに増設を予定しています。

開院5年目を迎える今年、新たにスタートする老健「みずばしょう」とも肩を組み、連携をとりながら、今秋に繰り上げ実施される介護保険の改定にも対応していきたいと考えています。本年もどうぞ宜しくお願いいたします。

『最近の予防接種の話題 - 安心して接種ができるように- 』

国立病院機構福岡病院小児科

岡 田 賢 司 先生

1. アレルギー児への接種

福岡県内での接種医が、接種要注意者として最も気にしているのが接種液へのアレルギーでした。ワクチン接種後の即時型副反応とワクチン添加物との関連およびこれまでの取り組みを紹介しました。1994年それまでほとんど報告されていなかった生ワクチン接種後のアナフィラキシーが多く報告されるようになり、その要因がワクチンに添加されていたゼラチンの増量と解明され、ワクチンからゼラチンが除かれました。以後生ワクチン接種後の即時型副反応の頻度は著明に減少し、麻しんワクチンをはじめ多くの生ワクチンは安全に接種できるようになっています。どうしても不安が残る場合、予防接種ガイドラインに掲載されている皮内反応を紹介しました。

2. 今冬のインフルエンザ対策

乳幼児へのインフルエンザワクチンの効果を紹介しました。幼児は発熱を指標とすると有効率 20～30%でしたが、乳児への有効性は症例数が少なく見出せなかった結果です。インフルエンザ脳症など合併症の不安から乳幼児への接種希望が増加しています。卵白 RAST 3 以上でも、卵加工品などを食べている児では安全に接種できています。卵完全除去療法中や卵摂取後に全身の蕁麻疹、アナフィラキシーをおこした児で接種医や保護者が接種を希望する場合、インフルエンザ罹患率や入院率、ワクチンの有効率、喘息の重症度、集団生活への参加の有無、家族数など多くの要因を考慮して接種の可否を判断する必要があると考えられます。

3. 結核予防法の一部改正と BCG 直接接種

2005 年 4 月からツベルクリン反応検査の廃止および BCG 直接接種が開始されます。接種時期が生後 6 か月までときびしい制限がついています。BCG の目的は、重症結核を防ぐことにあります。接種体制を見直す必要があります。接種率低下を最小限にするには、いろいろな工夫が考えられます。

- 1) 乳児健診の時に BCG 集団接種を実施する。
- 2) 近隣市町村と集団接種を「相互乗り入れ」で行い、集団接種設置回数を増やす。
- 3) 個別接種では、接種医療機関の広域化（相互乗り入れ）を図る。

新生児接種にも不安があります。万が一、致命的全身性 BCG 感染症が起こった場合、法改正の趣旨に反した予防接種への不信感が生じ、接種率低下に繋がることと予測されます。

4. 麻しんワクチン

2 回接種法が予防接種検討会で議論されています。接種年齢などの話題を紹介しました。

老健準備室便り(16)

1月5日現在の工事の進捗状況をお知らせします。

建築工事については、居室窓のアルミサッシとガラスの取付け、窓の木枠工事とカーテンボックスの取付けがほぼ終了しました。現在は居住棟内部、各居室の間仕切壁の下地工事とボード貼り、天井の下地工事、浴室の床暖配管の型枠と防水工事が進められています。居住棟外部については、外壁の吹付け、2階のバルコニーに手摺の取付けが行われています。管理棟については、各部屋の間仕切壁の下地工事とボード貼りが始まり、各部屋の配置が確認できるようになりました。

機械設備工事については、先月から引き続いて建築工事の進捗に合わせて、天井内に機器・配管・ダクトの吊り込み、保温工事が進められており、電気設備工事についても建築工事に合わせて、天井内・間仕切内の配管・配線工事が進められています。

造成工事については、施工時期を延期していた敷地南面の擁壁工事と隣接する水田に乗入れの新設、畦畔拡充工事が終了しました。

12月の準備委員会では、ベッドとマットレスを設置して体感し、見積を参考にベッドとマットレスの組合せを考慮して機種を決定しました。介護保険ソフトについては、業務システムと合わせて検討することとし、再度検討する予定です。

福祉車両の助成金交付申請について、(財)日本船舶振興会(日本財団)に車いす対応の普通車(ワゴン車)とマイクロバスの2台を申請していましたが、審査の結果、普通車についてのみ助成が決定しました。今後、助成契約と売買契約を締結し、今年度内に納車の予定です。



サンルームの様子



居住棟東側の様子



居住棟内部の様子



外壁吹付け後の様子

新年抱負

終戦の年に旧制中学に入る。六年間を同じ校舎で過ごし、その後日大医進過程二年、専門過程四年、インターン一年、食糧不足、交通難（鼠ヶ関- 上野間十二時間）の時代を過ごし、現在の生活から考えると、天国と地獄、更に医局生活、人並みに家庭を持って古希を過ぎた。最近テレビ・新聞等で、戦後の産業振興、科学技術の進歩の苦労話を見ると、鳥肌が立つほど感動してしまう今日このごろです。
(佐藤医院 佐藤 元昭)

幸い六度目の「酉」を迎えることができました。振り返ってみて、私の記憶にあるのは日中戦争以降のことですが、世の変化の激しさに圧倒される思いがします。これからたいしたことはできませんが、何年か有意義な生活を送ることができればと考えています。
(三井病院 奥村 浩)

最近はやがなまとまった時間が取れないので北アルプスや東北の山を登ることが出来ない。何とか時間をやり繰りして山を訪れ、写真を撮ったり昼寝をしたい。
(斎藤胃腸病院 齋藤 壽一)

新年 明けましておめでとうございます。今年は年男ですので、油をとり過ぎないように、ふとり過ぎないように、とりあえず気をつけます。ちなみに、現在 BMI は標準です。本年も、どうぞ宜しくお願い致します。
(藤吉内科医院 藤吉 令)

新しい年を迎えることが出来感謝 これからの人生に乾杯
(犬塚医院 犬塚 博)

12年前は、My 手術小物を持って、大学や出張病院の手術室を駆け回っていました。慌しく忙しいけれど、充実感は計り知れなく、鶴岡で仕事をする事など、全く考えていませんでした。突然降って沸いた今の生活は、変化は無いけれど、地に足が着いていてそれなりに気に入っています。12年後の還暦は、メスを置いて、のんびりしているでしょうか。
(福原医院 福原 晶子)

患者さんとよく話し合い、互いに理解しながら進める診療を続けたいと考えています。一昨年より携わっている警察医業務も、事実誤認のないよう慎重に続けたいと思います。本年も宜しくご指導の程お願い申し上げます。
(桂医院 佐久間和弘)

当地区医師会にお世話になり3年が経過しました。これまでは自分のことで精一杯なところがありましたが、これからはより地域の医療に貢献できるようがんばって行きたいと思います。今後ともよろしく申し上げます。
(三井病院 三井 卓弥)

今年は、日常診療、学会活動とも、さらに精進したいと思います。皆様には今後とも御指導下さいますよう宜しくお願い致します。
(市立荘内病院 安宅 謙)

表紙写真にご協力いただいた先生の紹介（敬称略）

佐藤
元昭

犬塚
博

奥村
浩

齋藤
壽一

福原
晶子

藤吉
令

三井
卓弥

安宅
謙

佐久間和弘

ご協力ありがとうございました。



進化を続ける「日医標準レセプトソフト」

三原 一郎

今回は、日医総研からの提供記事を紹介します。

ORCAプロジェクトと「日医標準レセプトソフト」

日本医師会(以下日医)では2001年、医療現場のIT化(情報技術)をすすめるため、土台となるネットワークづくりを行うという「日医IT化宣言」を行いました。そして、これを受けてORCAプロジェクトでは、「レセプトコンピュータ(以下レセコン)内の情報に互換性がない」「情報交換の基盤が未整備」「医療現場の情報化ニーズへの対応が不十分」「患者情報の管理データベースであるレセコンデータを有効に利用できない」といった医療機関の情報化における課題に取り組んできました。

この日医IT化宣言に基づくORCAプロジェクトでは、ネットワーク端末としても使えるレセコン、つまり、日医標準レセプトソフト(以下日レセ)の普及を進めることで、新たな医療情報基盤の構築を目指しています。医療機関の経営環境が悪化するなか、良質な医療を継続的に提供できるよう、医師や医療機関内部の情報化および医療機関同士の情報交換を支援していきます。今年4月、新執行部が誕生した日医では、ORCAプロジェクトを継続して推進する事とし、特に2年計画での開発方針として、日レセがレセコンとして完璧なものであるという評価を得ることを掲げています。

それでは、稼働数が1,000を超えた日レセの充実した機能の一部をみてみましょう。日レセでは従来のレセコンではオプションとして扱われている機能も標準搭載しています。さらに、インターネットを用いて、改正時などを含め、常に最新のマスタ・最新のソフトウェアを使用することができます。

業界情報提供機能 医療機関向けの情報【日医シロクマ通信・ソフトの更新情報・医薬品の緊急安全性情報 など】を毎日無料で受信	豊富な統計帳票 70種類以上の統計帳票をホームページ上に公開しています。	レセプト電算処理システム フロッピーなどの磁気媒体を使用して請求業務が行えます。紙に印刷する必要はありません。
標準装備の充実 労災・自賠責レセプト作成システム／薬剤情報提供書作成システム／患者予約システム／レセプトデータチェックシステム など	医薬品の併用禁忌チェック機能 約5万通りの組み合わせのデータベースを使ってチェックします。	各都道府県の公費請求書出力対応 (一部地域を除く) 各都道府県の公費請求書の出力に対応し、随時プログラムを公開

医療機関によって差はありますが、通常日レセの導入には約3カ月を要します。レセコンは会計処理を行う業務ソフトであり、自力で導入し、継続的にメンテナンスしていくことは、医療機関の経営上、リスクが高くなります。業者に委託する場合、サポートには経費(日レセに係るサポート費用の「全国平均」は初期費用118万円、年間メンテナンス27万円)がかかります。

医療機関は日レセを選択すれば、経済効率を上げたレセコン稼働を実現できます。ただ、医療は地域に根付いたものであり、一医療機関だけで完結するものではありません。地域に応じた医療提供体制や疾病があることから、医療は地域型だといえるでしょう。また、地方公費の対応も、日医総研ですべてを一括メンテナンスすることは不可能なので、地域でのメンテナンスが欠かせなくなってきます。将来を見据えて、地元の医療IT産業を地域医師会レベルで育てていくという視点も、ORCAプロジェクトが目指すものなのです。日医では、会員のために、質の担保されたサポートを推進する上でサポート事業所を認定する、日医総研日医IT認定制度を整備しています。

今年の日医総研における取り組み

◇完璧という評価を得るために◇

日レセが、レセコンとして完璧という評価を得ることを開発方針として掲げています(2年計画)。使いやすさを高め、レセプトチェック機能を強化して、サポート状況も開示していきます。日レセの質について、さらに評価を客観的に得られるような仕組みも計画中です。さらに、ソフトウェア自体だけでなく、認定事業所のサポート品質も向上させます。

また、6月にorca-request ML(メーリングリスト)を稼働させたことによって、より多くの要望に対応していく環境が整いました。ニーズを吸い上げ、2週間おきに公開でした形で回答しています。進捗状況を提示し、数カ月で対応しているものもあります。

◇マニュアルを作成◇

普及期に入った日レセが、多くの人に理解され、短期間で操作方法が身に付くものとなるよう、大がかりな『基本操作マニュアル』の改訂を行い、ID登録者に贈呈しています。あわせて、ホームページ上でもマニュアル関係のファイルを整備しました。

◇データ移行に対応◇

認定サポート事業所を支えるORCAサポートセンターでは、データ移行支援サービス(有償)を開始しました。CSV形式に変換できることが条件になりますが、基本的どのレセコンからでも、日レセへのデータ移行が可能になっています。

◇公開サーバの設置◇

インターネット上に日レセのサーバを立てることで、小さなプログラムとして配布できるようになります。つまり、インターネットさえあれば、どこでもデモンストレーションができるのです。この場合、サーバと端末は文字データのための通信なので、PHS接続でも十分対応できます(今年度中に実現予定)。

◇日医ITフェアへの支援◇

10月からの半年間で計39回(12月現在の予定)開かれる、都道府県や郡市区医師会「日医ITフェア」を初めとする各種の催しにおいて、ブースや資料、広報や講演を行う人材の提供などを行い、全面的に支援しています。

◇広報活動の展開◇

月に2回発行される日医雑誌(発行部数16万部)と一緒に折り込み広告を発送していますが、大きな反響をいただいています。日医ITフェアなど、さまざまなイベントで配布するパンフレットも作成し、事例収集や都道府県・郡市区医師会への記事提供も始まりました。

今後、日レセを採用した医療機関が増えることによって、共通の患者情報の管理データベースが普及していきます。それを受けて、紹介状ソフトなどを用いれば、共通基盤によるネットワークがインターネットのように構築されていきます。これが、日医のすすめる、IT時代における皆保険制度のインフラ整備なのです。

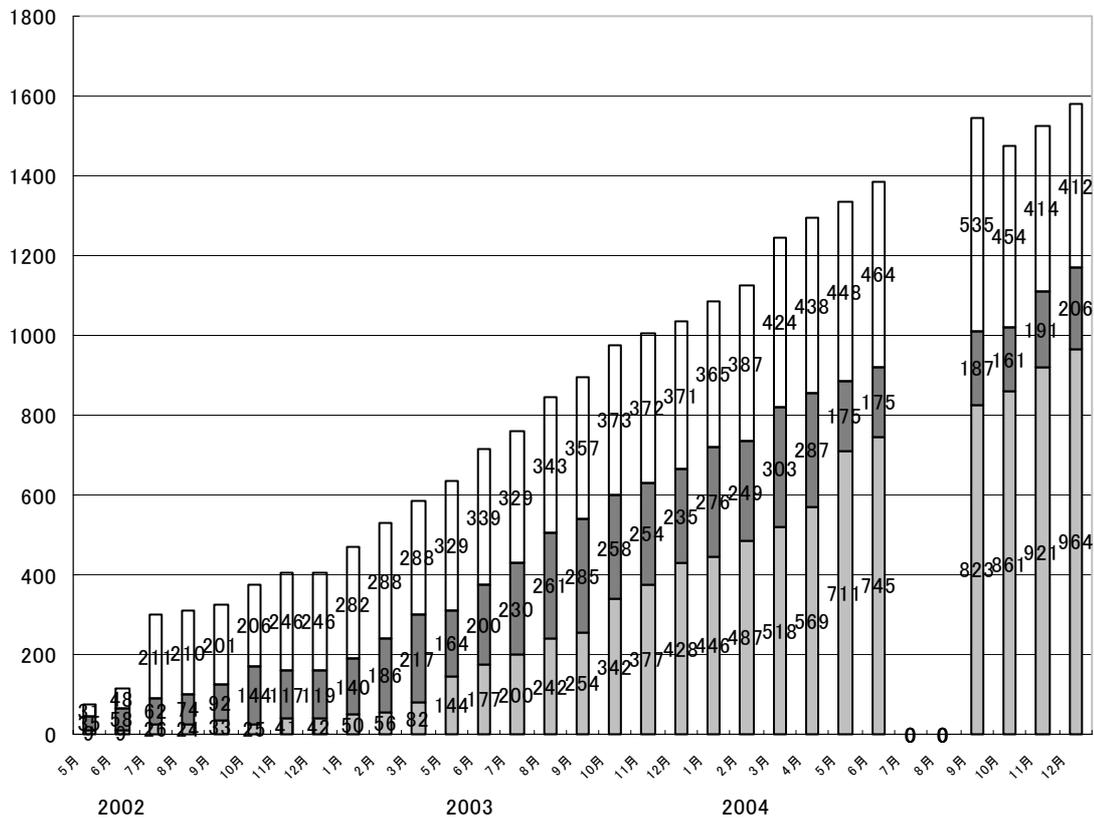


平成 16 年 12 月現在の普及状況

日医総研では、毎月、日レセの稼働状況を調査し、ホームページ上で公開しています。12月の導入医療機関数は1,170施設(累積)にものぼっています。



医療機関数
(#)



◇病院の稼働数◇

入院版のパッケージについての問い合わせ件数は、増加の一途を辿っています。端末をいくら増やしても経費はほとんど変わらないことから、費用メリットが大きいのです。入院版の登録件数は 115 件、切り替え・準備を終えた稼働中医療機関は 108 件です。また、大きなところでは、349 床、289 床、244 床といった規模の病院でも稼働中です。有床診療所では 90 件が稼働しています。

◇電子カルテの接続◇

レセコンは大抵の医療機関で唯一の患者情報の管理データベースです。今後、医療現場IT化のニーズに合わせて、多種多様なあらゆる診療支援システムと接続されるべきものです。従来なら、レセコンからは限定的な電子カルテを使用するだけでしたが、日レセは接続可能なシステムの選択肢を拡げています。すでに、日レセと連動する電子カルテは、10 数社によって市販されています。電子カルテをはじめ、さまざまなシステムの開発は続けられており、その選択肢が今後ますます増えていくでしょう。

(日医総研)



～ 編集後記 ～

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。

昨年は正に天変地異といってもよいような自然災害に見舞われ、世相を象徴する恒例の「漢字」は「災」と発表されました。特に新潟県中越地震はお隣の県であり、自分自身が育てられた県でもあり、とても身近なこととして感じられました。被災地の、特に子どもたちの心的外傷はかなり大きく深いものと聞いています。多くの援助の手は差し伸べられていますが一刻も早くもとの元気な姿に回復することを祈念しております。先日は、医局OBの新年会がありました。参加者のほとんどが新潟県在住で、生々しい当時の様子を聞くことができました。子どもだけでなく成人も、家庭内の少しの音にもビクついている状態がまだ続いているそうです。

さて、本号の表紙の「年男・年女」も3年目になりました。日ごろ接する機会が多いとはいえ皆さんの抱負や近況を聞けるのも楽しみです。酉年生まれの皆さんご協力ありがとうございました。

「マイペット&マイホビー」も「このコーナーだけは目を通す」という会員もおられて大変好評です。今後もいくつかのシリーズものを企画していますが、原稿を依頼されましたら遠慮なさらずお引き受けくださるようよろしくお願いいたします。また、形式にとらわれない自由な投稿をいつでもお待ちしております。

「老健準備室便り」も回を重ねましたが、老健施設「みずばしょう」の工事も着々と進み本年5月にはオープン予定です。本地区医師会にとっては今年一番の慶事になることでしょう。

すぐ先の案内ですが、1月16日(日)には市民公開シンポジウム「ITで変わる!地域医療」が開催されます。多くの会員の参加をお待ちしております。

目 次

- ・ 表紙……………1
- ・ 年頭挨拶……………2
- ・ 鶴岡地区医療学術懇話会抄録……………4
- ・ 老健準備室便り(16) ……………5
- ・ 新年抱負……………6
- ・ 表紙について……………7
- ・ ORCA普及に向けて<第9回>……………8
- ・ 編集後記……………11

編集委員：伊藤末志・三原一郎・中村秀幸・石原 良・福原晶子

発行所：社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町1-34

TEL 0235-22-0136 FAX 0235-25-0772 E-mail tsurumed@mwnet.or.jp

URL <http://www.mwnet.or.jp/~tsurumed/>